



知っておきたい

松江市名誉市民



名誉市民章

松江市では、市民又は本市において縁故の深い方で、公共の福祉の増進や文化の進展に寄与した方を「松江市名誉市民」とし、その功績を称えています。現在24名の方にこの称号が贈られています。シリーズで1名ずつ紹介していきます。郷土の誇りとして、いつまでも私たちの心に刻んでいきたいですね。

第6回 内藤 伸氏 【1882～1967】（昭和33年5月3日 顕彰）



（松江市勢要覧より）

飯石郡吉田村（現雲南市吉田町）で生まれる。明治23年、松江市東茶町の内藤家の養子となる。二十歳のとき上京、高村光雲に師事して木彫を学ぶ。明治37年、東京美術学校彫刻科選科卒業。昭和2年、帝展の会員となる。昭和4年、日本木彫会を創立。戦時中活動を中止した時期があるが、昭和27年に再興した。伝統的木彫技法の近代化をはかり、独自の研究と努力の結果「気刀彫」という新しい彫法を創案し、その技法で制作した作品「牛刀」で高い評価を受ける。大正から昭和にかけて多くの作品を生み、木彫家として名を残した。また、松江千鳥南公園の市民憲章記念碑「木俣彦」や松江大橋の高欄・擬宝珠をデザインした。昭和21年、日本芸術院会員となる。



松江城の石垣と刻印



石垣は、「打込接」といって、石切り場などで切り出したままの石をあまり加工しないで、石の平坦な面を外に出した積み方がほとんどですが、自然石やその割石を積み上げた「野面積み」も見られます。表面の石のすき間には小石が詰め込まれています。また、石をノミで加工し石と石のすき間がほとんど無いように積む「切込接」も一部見られます。



▲打込接 天守台石垣(南西から)
写真：『松江市史 別編1 松江城』より転載



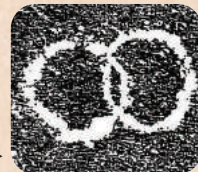
▲切込接 御廊下橋(千鳥橋)北詰石垣

石には印が刻まれているものもあり、「分銅」（堀尾家の紋章）の形をしたものや「鉞」「扇」「輪違」など全部で28種類の文様があります。中には、墨で書いた文様も発見されています。松江城に行くと、石垣の文様をさがして歩いてみませんか。中曲輪東面や二之丸下ノ段がおすすです。

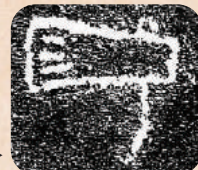
分銅▶



輪違▶



鉞▶



刻印：『石垣と瓦から読み解く松江城(松江市ふるさと文庫19)』より転載

島根図書館 松江市島根町加賀1414番地（島根公民館併設）
TEL (0852) 85-9088 E-mail: shimane@lib-citymatsue.jp

東出雲図書館 松江市東出雲町掛屋1139番地2（東出雲ふれあい会館内）
TEL (0852) 52-3297 E-mail: higashiizumo@lib-citymatsue.jp

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



印刷：今井印刷株式会社

CHIDORI
No.105

松江市立図書館報

編集・発行／松江市立中央図書館

〒690-0017 松江市西津田六丁目5-44

☎(0852)27-3220

2019年10月発行

<https://www.lib-citymatsue.jp/>

E-mail: chuou@lib-citymatsue.jp

鯰ほこ

火除けのまじないのために屋根の両はしに付けられた飾りです。木造で表面に銅板が貼られており、日本一の大きさ（2.1m）を誇っています。正面から見て右がメスで左がオスだと言われています。

望楼型

360度が見渡せる見張り場のことです。壁がないため遠くの敵軍をいち早く発見できるなど、展望台や司令塔として使われていました。犬山城や彦根城も同じ形のお城です。

附櫓

天守に入ろうとする敵を攻撃し、より強力で敵から守るために付けられた建物です。入口の扉の表面は頑丈な鉄でできています。中に入ると、敵が侵入しにくい仕組みになっています。

写真：『国宝 松江城ハンドブック わがまち松江の誇り』より転載

内 容

表紙 松江城
見開き 松江城天守 国宝の決め手とさまざまな工夫
裏表紙 郷土の葉 松江市名誉市民シリーズ「内藤 伸氏」
松江城の石垣と刻印

松江城クイズ いくつ 答えられるかな？

- ① 国宝になった決め手は？
- ② 鯨ほこは何のためにある？
- ③ 天守に井戸があるのはなぜ？

松江城天守

国宝の決め手とさまざまな工夫

松江城天守 基本データ

年	代	けいちょう 慶長16(1611)年	
こ う 構	ぞう	つき ほんからんき	つけやぐら 南面附櫓
造	4重5階、地下1階付、本瓦葺、南面附櫓1重、本瓦葺		
高	さ	やく 約30m（天守高22.43m、平均石垣高7.97m）	
いしかめんせき 1階床面積：447.23㎡			
へいぜい 国宝指定日：平成27(2015)年7月8日			
い 5つめの国宝天守に指定された、現存する唯一の正統天守			

国宝の決め手1

祈祷札

松江城天守の完成を祝う儀式で使われた札で、平成24年(2012)に再発見されました。これまで、松江城はいつ完成したのかはっきりとわかりませんでしたが、この札に「慶長16年」と書いてあったことで、松江城の完成した年が確かなものになりました。

地下の柱には、祈祷札が打ちつけられた釘穴が残っています。



祈祷札 松江市蔵

狭間

近づく敵を鉄砲や矢で攻撃するための窓です。一般的には城の外にいる敵を狙うためのものですが、松江城は天守閣内に敵が侵入した時を想定して附櫓にも狭間があります。

狭間は全部で87か所あり、そのうち17か所が附櫓にあります。



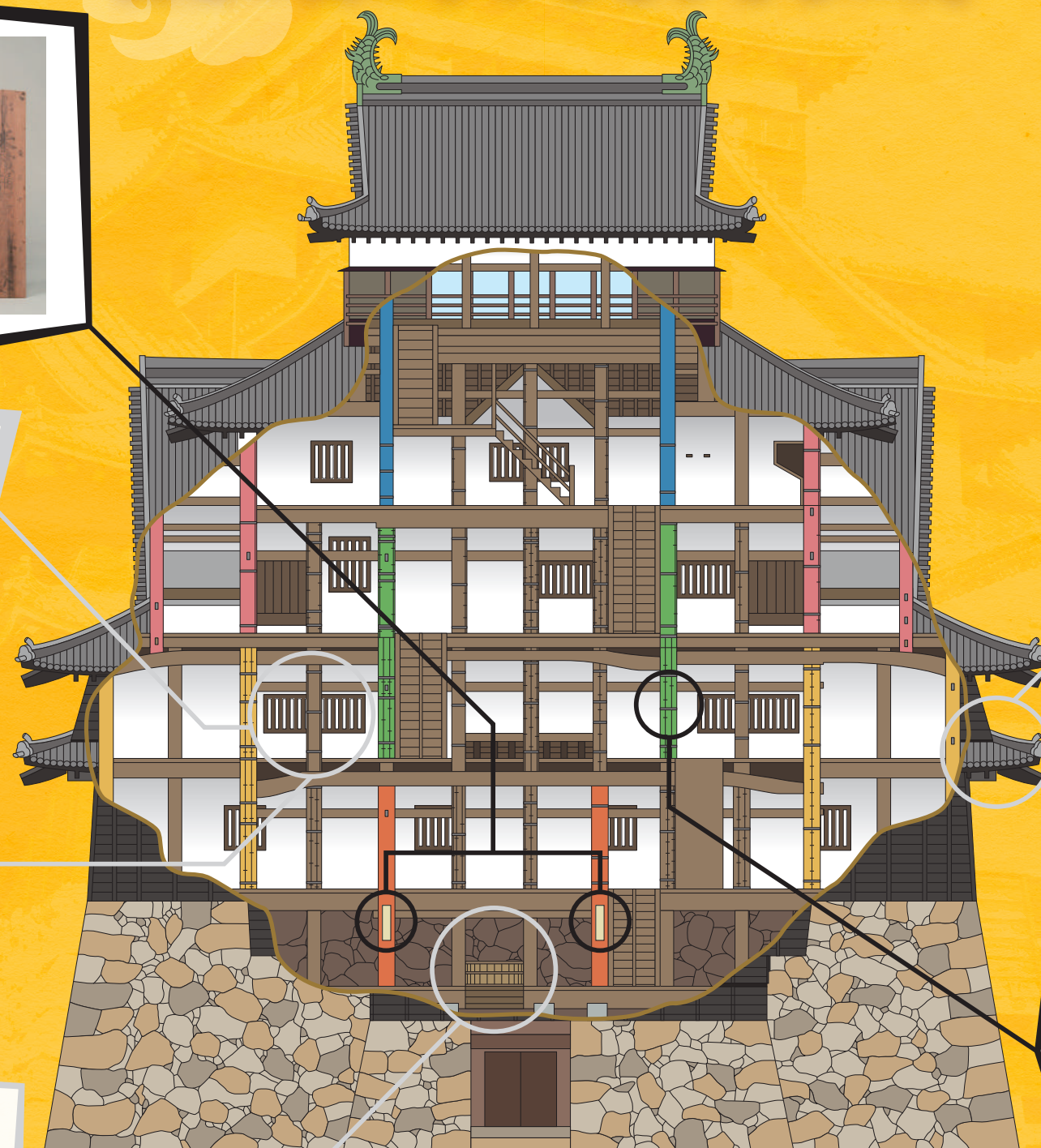
武者窓

狭間と同じように外の敵を鉄砲でねらうための格子窓です。格子の面がななめにつけてあるので、狭間よりも広い範囲の敵を狙えるようになっています。



井戸

城に立てこもって戦う時の飲み水確保のために掘られた井戸です。井戸のある地下は「穴蔵の間」と呼ばれ、塩なども一緒に保存されていました。深さは20m以上あり、天守内に井戸があるのは全国的に大変珍しいです。



松江城断面図・写真(狭間・武者窓):『国宝 松江城ハンドブック わがまち松江の誇り』より転載

写真(井戸・包板・石落とし):『松江市史 別編1 松江城』より転載

参考資料

- 『親子で学ぶ 国宝松江城 (親子で学ぶ松江城シリーズ3)』 宍道正年／著
- 『国宝 松江城ハンドブック わがまち松江の誇り』 松江市教育委員会／発行
- 『国宝松江城 美しき天守、改訂版』 山陰中央新報社／発行
- 『松江城天守再発見 祝・国宝指定 平成27年秋 特別展』 松江歴史館／編集・発行

- 『松江市史 別編1 松江城』 松江市史編集委員会／編 松江市／発行
- 『石垣と瓦から読み解く松江城 (松江市ふるさと文庫19)』 乗岡 実／著 松江市歴史まちづくり部史料編纂課／発行
- 『日本100名城のひみつ』 荻原さちこ、日本城郭協会／著 など

国宝の決め手2

通し柱

松江城では2階分の長さの通し柱が階数ごとにバランスよく配置されています。さらに、上の階の重さを外側にずらす工夫もあり、地震にも強い頑丈なつくりになっています。これにより、短い柱でも天守を造ることが可能となり、その後の建築法を大きく変えるきっかけとなりました。

図中で色が付いている柱が「通し柱」です。

石落とし

敵が石垣を登ってこないよう、幅30cmのすき間から石を落とすための仕掛けです。外からは見えづらい構造になっていて、石だけでなく鉄砲や矢を放つこともできます。



国宝の決め手3

包板

柱のまわりを包んでいる板のことです。板が外れないように、「帯鉄」(金輪)や「錠」で束ねてあります。1階から4階の308本ある柱のうち130本がこの包板となっています。柱を強くするためと、見栄えをよくするために取り入れられたと考えられています。全国的に見るととても珍しいやり方で、松江城天守の特徴です。



ご協力いただいた方々

松江市教育委員会
松江歴史館
松江市歴史まちづくり部史料編纂課